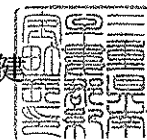




紀産第647号
平成19年 5月 2日

国土交通省道路局長
宮田年耕様

紀宝町長 西田 健



中期的な計画の作成にあたってのご意見について（回答）

平成19年4月2日付け国道企第 114 号により依頼のありました標記
について、別添のとおり提出いたします。

事務担当

紀宝町産業建設課 池田 英治

TEL0735-23-3025

FAX0735-22-4669

中期的な計画の作成にあたってのご意見について

これまでの道路整備は、戦後の復興時代とその後の経済成長の過程において、産業・経済の発展を支える動脈の形成を急ぐため、産業関連物資等の輸送を担う都市部を中心とした主要な道路網の整備に主力が注がれてきました。

その整備の財源として、道路特定財源制度と有料道路制度という2つの制度によって都市部から緊急に道路網が形成され、今日の我が国の経済成長を支える最も重要な基盤、国民生活の向上に多くの成果があげられてきました。

このように都市部の道路網が形成され、ようやく地方にも道路網の整備が進められつつありましたが、平成18年12月に国においては行政改革推進法に基づく道路特定財源の見直しに関する具体策が閣議決定され「真に必要な道路」の中期整備計画を07年中に作成した上で、道路整備を上回る税収を一般財源化することが定められております。

ご承知のとおり、一般によく理解されていない状況にありますが、国においては道路特定財源等ですべての道路整備予算を賄っている

ものの、地方自治体においては道路整備のおよそ半分が一般財源から支出されています。

特に都道府県・市町村道の整備率が低い状況において、厳しい財政の中から道路整備に多額の一般財源を投入している地方公共団体にとっては、財源確保は重要な課題であります。

道路特定財源に余剰も生じているというのはあくまで国費ベースの話で、地方費では道路整備予算に占める道路特定財源の割合は約50%に過ぎず、道路特定財源は「余っていない」状況にあります。

言うまでもなく道路は、地域の自立的発展や交流促進を図り、安全で安心できる生活を確保する上で欠くことのできない根幹的な社会基盤であり、とりわけ地方においては経済・産業活動や救急医療などあらゆる活動を支える生命線であります。

しかしながら、地方においては高速道路をはじめ、身近な生活道路の整備、市街地における渋滞対策や道路の環境整備、さらには橋梁等の既存施設の適切な維持管理など多くの課題が残っており、そのための道路整備財源は確実に確保されなければなりません。

当地域は、近畿自動車道紀勢線が関係各位のご配慮により急速に整備が進められておりますが、当地域の熊野市から新宮市間が予定

路線のままになっております。

この紀勢線は、紀伊半島をネックレス（全線整備）してこそ高速道路網として大きな機能が発揮されるものであり、当地域の喫緊の課題である紀勢線の熊野市～新宮市間と那智勝浦道路が連結されれば、当地域のみならず広く国全般にわたってのインフラ機能が効果的に発揮されることとなります。

特に幹線道路が一般国道42号しかない当地域は、全国屈指の多雨地域であり、大雨による一般国道42号の通行止めは平成18年に4回（31時間40分）にわたり「陸の孤島」となり多大な支障を生じております。

今後、年々発生率が高くなっている大規模地震や頻繁に起こっている豪雨災害等がひとたび発生すると当地域は陸の孤島になる可能性が高いことから重大な被害が想定されております。

また、医師不足が深刻な問題となっている当地域は、少子・高齢化が急激に進み高齢者の救急件数が増加しており、素早い搬送と治療が要求されています。

当地域においては、御浜町に東紀州地域の2次医療施設である紀南病院、新宮市には新宮市立医療センターが運営されています。

しかし、紀南病院では泌尿器科医の引き揚げ、脳神経外科、神経内科が非常勤化され、新宮市立医療センターでは産婦人科が今年で出産の受付が休止予定と深刻な医師不足が続いています。

そのため、両病院では地域の医療機関が協力して、地域全体で必要な医療を提供してゆく「地域完結型医療」が進められ救急対応等が行われております。

今後、更に病院間相互の搬送が増加する中、一般国道42号熊野大橋付近では慢性的な渋滞が発生しているため、救急患者を搬送できない場合もあり、この渋滞を解消させる熊野川河口大橋の整備が求められております。

また、地域に潜在的な力や意欲を有する中小企業や労働力がありながら、そこへ至る幹線道路網が未整備であるために、生産・事業拠点を誘致できず、労働力が都市部へ流失し少子高齢化が急激に進んでいます。

このような課題を解決するため安全で安心な暮らしの確保や道路交通の円滑化を図り、地方の活性化や経済活動の発展を支え、本来公平であるべき道路を中心としたインフラ面での条件を等しくするために不可欠な「地域間格差を解消する道路」として、近畿自動車

道紀勢線（熊野市～新宮市間）の早期着手及び安全で快適な生活環境を確保する「生活者重視の道路」として熊野川河口大橋の早期着手の優先度を高く推進していただきたい。

また、近年においては地方の自主性、裁量性を高めるための補助金改革と地域再生の観点から多大なるご配慮を頂き新たな道路整備の交付金制度が創設されました。

当町においても、この交付金制度を活用し地域の課題に応じた道路整備を実施しているところですが、財政が厳しい状況にあるため、必要とする道路整備費を確保することができておりません。

今後、ますます道路整備率の低い都道府県・市町村道の改善が求められている状況の中、交付金の国費割合を高くしていただくことによって、道路整備率が高くなり地域再生が図れますので地域の実情に応じた運用の改善を求めます。

平成19年 5月 2日

国土交通省道路局長 宮田 年耕 様

紀宝町長 西 田

